

## 平成 24 年度 あいち環境絵本・紙芝居大賞 入選作品一覧

## 【絵本一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
大賞	リョコウバトの話		昔、北アメリカにリョコウバトという渡り鳥が50億羽もいた。ヨーロッパからアメリカ大陸に来た人たちは、お金のために食料や羽ふとんの材料になるリョコウバトを毎年数十万羽も殺しました。そのため数がどんどん減り、50億羽いたリョコウバトは、わずか25万羽まで減ってしまいました。そしてハンター達は、オハイオ州の最後の群れにも襲いかかり、残ったハトはたったの数千羽、繁殖力の弱いリョコウバトに未来はありません。とうとう最後の1羽もカナダで撃ち落され、残った1羽の「マーサ」も動物園で亡くなりました。今はマーサの標本だけがあるだけ。人間はどうしてそんなひどいことをしたんだろう。
優秀賞	ふしぎなはっぱ		お花が大好きなさっちゃん種を見つけ植木鉢に入れました。次の日大きなはっぱに育ち、今にも飛んで行きそうです。さっちゃんとおかあさんは、大きなはっぱに乗り町に飛んで行きました。空から景色を見ると、道路には空缶やゴミがいっぱい。川にもたくさんのゴミが流れていました。「今度は山に行こうよ」山ならきれいかと思いましたが、工事で山が削られてる「草木かわいそう」、最後に山のてっぺんにいったらとても気持ちのいい風が吹いていました。「よごすのも人間、きれいにするのも人間」また飛びたくったら言ってね。
	あめのふるひは		ものすごい色の雲が広がって雨が降ってきた。雨の中、かえるもゲロゲロ、デンデン虫もデンデン、アメンボもアメアメ、ナメクジもダンゴムシもナメナメダンダン、ミミズもひょっこり顔を出して喜んでいる。雨が止んでお日様が顔を出したらみんな消えた。お日様がきれいなのかなあ。
入賞	モエちゃんちのいけがたいへん		モエちゃんちの池と花壇はいろいろな生き物が勝手に集まり住んでいる。ある日パパが海外出張している間に、友達が水草をくれたので池に入れた。ところがパパが帰ってくると池じゅうにホテイアオイが茂り、光が当たらないため今までの水草が枯れかけていた。更にモエちゃんちの知らないうちにアメリカザリガニまでいて、メダカが少なくなっていた。モエちゃんは怒りましたが、パパから外来生物が悪いのではなく、一緒にまぜることがいけないといわれ、池に勝手に住んでもいいけど暴れん坊さんはお断りと立て札をしました。

平成 24 年度 あいち環境絵本・紙芝居大賞 入選作品一覧

【絵本一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
入賞	あおぼくんがやってきた		ぼくは赤んぼうのときに拾われてきたネコ。ぼくの仕事は桜の木を守ること。カーカーとカラスのカーキチが来た。さくらこちゃんに乱暴するんじゃない。犬のワンコちゃんが来たけど、今日は遊べないんだ。蝶のおちょうふじん、いつもさくらこちゃんと仲良くしてくれてありがとう。ネズミやタヌキ、ヘビも来たけど絶対にさくらこちゃんには近づけないからな。夜になって足音が聞こえる。「誰?誰なの?」眠ってしまっているうちに、さくらこちゃんとあおぼくんがパトンタッチ。「あおぼくんの季節ならみんな遊びに来ていいんだよ」
	みんなみんなたいせつ		二年前、村の田畑が荒らされ誰の仕業かと思っていた。そんなある日とみ子ちゃんがイノシシと話しているのを和尚さんが見かけました。とみ子ちゃんは震災遺児でお兄ちゃんと一緒におばあちゃんの所にやってきた。とみ子ちゃんはいつもニコニコしてて動物の言葉が分かることからトコタンと呼ばれていました。イノシシがトコタンに「お父さんが人間の仕掛けたオりに閉じ込められた」と泣き出してしまった。イノシシは「たけのこはもともとわし達のたべもので、あとから人間が食べるようになった。人間はずるい」と言った言葉にショックを受けました。トコタンは和尚さんにイノシシ達が困っているのを助けてほしいと頼みました。和尚さんは村の人たちと相談してイノシシを逃がしてあげました。

【絵本子どもの部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
優秀賞	しおつの宝 守ろうみんなの 尺地川 ふやそうキラキラ かがやくホタル		けんたくんは尺地川の近くに住んでいます。ある日お尻がパツと輝く虫が飛んでいました。ホタルのホックんとホツちゃんは一週間しか光って飛べないホタルの一生と、ホタルが安心して住めるのは川を守ってくれている人達がいることをけんたくんに教えてくれました。そんな夜、ホックン達が川を汚さないようにけんたきんにお願いに来たため、けんたくんはクラスみんなと協力して川をそうじて、ホタルに感謝されたというお話。

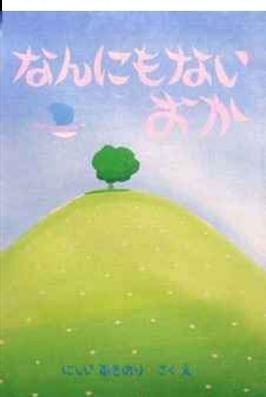
平成 24 年度 あいち環境絵本・紙芝居大賞 入選作品一覧

【紙芝居の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
大賞	てんぐやま		<p>とある保育園に天狗の羽扇が落ちていました。子供たちがびっくりしていると、天狗が「大事な羽扇があつて助かった」と言って現れました。天狗は拾ってくれたお礼に子供たちを天狗山に案内してくれました。天狗は一本の大きな木で一本下駄を作り子供たちにプレゼント。木の実で布を染めて結袷裳を作ったり、森の中でいろいろ遊んだりと楽しみました。そして今度は食事の準備。木の実やきのこ、お魚とスーパーみたい。天狗さんは竹筒ごはんを作っておいしく食べました。そろそろ帰る時間、子供たちは涙を流して別れを惜しみました。そして天狗は空から保育園を見守りました。</p>
優秀賞	竹のふしぎ		<p>男の子が無くした上着を探しに竹やぶに来ました。上着は君の背よりも高いところにあるかもしれないよ。竹は一日で120cmも伸びるものもあるんだ。竹の根っこは地下茎があつて家族で繋がっているんだ。竹は昔から大事な道具として使われ、ざる・ものさし・ものほしぎお等。今では使われなくなったため、竹を切ることがなくなると、他の草木は竹に負けてしまって、竹林が荒れてしまうんだ。だからみんなで竹林を整備して光が当たるようにしてほしい。明るい竹林は木も鳥もみんな喜んでくれるし、とても気持ちがいいからみんな遊びに来てくれるといいな。</p>
入賞	ほりかわとまほうのだんご		<p>昔々徳川家康は家来に命じて堀川を作りました。川には橋がかかり、お城の周りには人々が住み、桜もきれいに咲いていました。戦争があつて城は焼けましたが、みんなの手でよく似た名古屋城が造られました。その後、工場からの汚れた水や、生活の汚水や、ゴミなどにより魚も住めない川になりました。「今のままでは川がかわいそう」堀川を好きな人たちはいろいろ考え、ヘドロを少なくして臭いも消してくれる良い菌の力を借りることにしました。それは酵母菌といって、パンやヨーグルトを作るときにも必要なもの。その菌と土を混ぜておにぎりのようにダンゴを造ります。それを川の中に入れると、汚い川をきれいにしてくれるんだ。でも、魔法のダンゴにばかり頼っていないで、みんなができることから気をつけると、川はきれいになります。</p>

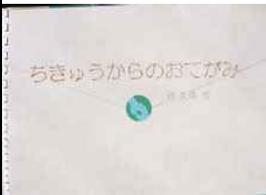
## 平成23年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

## 【一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
大賞	もりのおくりもの		<p>ゆうせい君は、家族や幼稚園の友達と森へ出かけます。森の案内人であるおじさんから、森について様々なことを教えてもらったゆうせい君は、おじさんと「家でどんぐりを育てて、その木を森に植える」という約束をします。木や小枝をつかった工作をしたゆうせい君たちは、森からたくさん贈り物をもらったような気がして嬉しくなります。その後も、森でお弁当を食べたり、緑の中でいっぱい遊んで一日はあっという間に過ぎます。</p> <p>次の年、ゆうせい君はどんぐりの苗を森に植えて、「今度は僕が森に贈り物をあげるんだ」というお話です。</p>
優秀賞	こぐまのべべあ		<p>冬眠中のこぐまの「べべあ」は、穴の中での毎日が退屈でたまりません。我慢できなくなって穴の中を走り回る「べべあ」に、おかあさんぐまは美しい春夏秋冬の移り変わりについて話します。</p> <p>「べべあ」は穴からでることができる春が来るのを心待ちにしながら、深い眠りに落ちるのでした。</p>
	モエちゃんちのいきものマンション		<p>モエちゃんのパパは花壇と池を作りました。花壇と池に、いろんな生き物が住み着くようになります。</p> <p>しかし、生き物はそれぞれの餌となる生き物を食べてしまい、このままでは全ての生き物がいなくなってしまうのではないかと、モエちゃんは悲しくなります。しばらく留守にしていたモエちゃんは、帰ってきてびっくり。生き物は増えていたのです。</p> <p>パパから食物連鎖について教えてもらったモエちゃんは、「(この場所は)生き物のマンションみたいだね」というお話です。</p>
	なんにもないおか		<p>旅の途中で歩き疲れた若者は、「何にもない丘」で美しい星空を見て、丘を大好きになり、そこで暮らし始めます。不便なこともありますが、家を建て、結婚し、子どもが生まれ、楽しく笑顔で暮らします。</p> <p>しかし、丘は開発されて「何でもある町」になります。夫婦からは笑顔が消え、空には星がありません。ある日、「何でもある町」を気に入った王様が、ブルドーザーで町をお城に運んでいきます。夫婦の家はブルドーザーの爪の間からこぼれ落ち、町は「何にもない丘」にもどります。何にもないけれど、たくさんの星とおじさんとおばあさんになった夫婦の笑顔は輝いているというお話です。</p>

平成23年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

【一般の部】

区分	作品タイトル	作品	
入賞	ぼくんちのなつのにわ		<p>小学一年生のしょうたは、花や野菜を育てることが好きなお母さんに「ペピーノ」の苗を買ってもらいます。花が咲いたペピーノ。しょうたはペピーノの世話をする中で、いろいろな植物に思いをはせ、いろいろな生き物に出会います。</p> <p>ある日、しょうたはペピーノに大きなアオムシがいることに気がつきます。アオムシについて観察するうちに、スズメガの生態や種類が多さについて学びます。しょうたは夢の中でショウタガタスズメになり、緑がたくさんあることの良さに気がつきます。</p>
	ちきゅうからのおてがみ		<p>地球から、お手紙が来ます。手紙にはECOとは何かということや、おうちでできるECOについての紹介が書かれています。というのは、木が切られて森が少なくなったり、工場からの煙で空気が汚れて地球が元気をなくしているからなのです。</p> <p>地球が読者に「ちょっとだけECOに協力して、地球を元気にするお手伝いをしてください。」とお願いするお話です。</p>
	春までいいよ		<p>大きく育った大根は、おじさんとおばさんに抜かれますが、三本足だったので、そこに埋め戻されます。他の大根と一緒にトラックに乗っていきかけた大根は、寒さに震えながらしょんぼりしていました。</p> <p>そこに、迷子になって困っているカエルの兄弟がやってきます。かわいそうに思った大根は、三本足の間でカエルたちを休ませます。冷たい雨や雪の中、大根はぐっすり眠るカエルたちを一生懸命守ります。</p> <p>春になって、目を覚ましたカエルたちは大根にお礼を言います。気がつくと大根には新しい茎が伸び、白い花が咲き始めていた、というお話です。</p>
	あおいほし		<p>ずっと昔に約束していた、きれいな青い星に行こうと、UFOにのった男の子がある星にたどり着きます。</p> <p>その星に住む動物に、青い星の場所を聞いても誰も知りません。かわりに、この星の空や海が汚れて動物が困っていることを知ります。不思議な力で空や海をきれいにした男の子は、最後に物知りのくまさんにたどり着きます。くまさんは、「青い星」とは、かつてのこの星の姿だと教えてくれます。男の子は、教えてくれたお礼に動物たちに森をあげます。</p> <p>こうして、この星は「青い星」に戻ることができました。男の子が、「この星が、このままずっと青ければ、(宇宙からでも)すぐに見つけて会いに行けるね」というお話です。</p>

平成23年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

【一般の部】

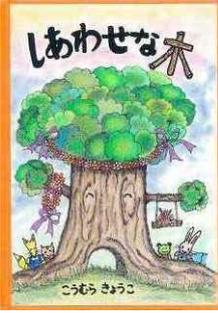
区分	作品タイトル	作品	
入賞	きれいなうみ		砂浜で居眠りしちゃったぼく。そうしたら、なんだか変な感じになって、ぼくが海になっちゃったみたい。海の中はとってもきれいで、お腹の中では魚がしゃべってた。けれど、人間のまく毒のせいで、病気になる魚が増えた。爆弾が爆発して、お腹の中も、ぼくの周りも、みんな変わってしまった。と、思ったら、目が覚めて、目の前には豊かな海が広がっていた、というお話です。

【子どもの部】

区分	作品タイトル	作品	
大賞	へっちら		ボクはお兄ちゃんの着られなくなった服を着る。汚れてたって「へっちら！」。晴れの日には歩いてスーパーに行く。ちよっぴり荷物は重たいけれどママとおそろいのエコバックがあれば「へっちら！」。帰ってきたらお昼ごはん。くまさんのついたお皿なら、大嫌いなニンジンも「へっちら！」。「ボク」の家では、たくさんの小さなエコをしています。エコって大変なことだと思っているみんなに、「へっちら」から始めよう、というお話です。
優秀賞	カエル		牛乳パックで作った絵本に、折り紙を切り張りして、小さな卵からおたまじゃくしがかえり、カエルになるまでの様子を描いています。絵本を開く度に、池の周りの風景が広がっていきます。
	笑顔のクローバー		女の子は、天気がいいので冒険に出かけます。冒険の途中で、仲間が伐採され元気のない木の周りに種を植えたり、お腹をすかせて元気がないライオンに果物をあげたり、汚れた海辺のゴミを拾ったりします。助けてもらったみんなは、そんな女の子に様々な色のハートの飾りをくれます。女の子は家に帰ってから、ハートの飾りを並べてみます。すると、それは笑顔いっぱいのかつらになったのでした。

## 平成22年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

## 【一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
大賞	むしの おきやくさん		<p>モエちゃんはむしが大好きな女の子。いろいろなむしの名前を知っているだけでなく、むしの言葉もわかります。</p> <p>ある日、モエちゃんが通う幼稚園にたくさんのむしのおきやくさんがやってきます。モエちゃんはむしの会話を皆に伝えますが、むしをキラいな子もたくさんいて、大騒ぎです。しかし、幼稚園の先生から、最近街の中にお花や木を植えているので、むしの数が増えて、幼稚園にもたくさんのおきやくさんが来てくれるのよ、と教えられ、それ以来、皆、むしと仲良くする、というお話です。</p>
優秀賞	しあわせな木		<p>あるところに、100年も立っている木がありました。その木のところにはいつも、鳥やいろいろな動物たちが遊びにやってきます。おかげで木はたいくつすることがありません。皆が帰り、夜になってお星さまが出ると、木は一日を思い返しながら眠りにつきます。</p> <p>皆の憩いの場所となり、静かに見守っている、そんなしあわせな木のお話です。</p>
	じいちゃんがおしえてくれたたいせつなこと		<p>みらい君は妹や近所の友達と川遊びをしているときに、近所の田んぼで仕事をしていたじいちゃんから、大切なことを教えられます。ホタルが棲みやすい環境は人間にとっても住みやすいのだと。それ以来、みらい君たちは川をきれいにするように心がけ、ある日の夜、じいちゃんとホタルを見に出かけます。感動的なホタルの光…この忘れられないひとときのことを、じいちゃんになったみらい君は近所の子ども達に伝え、この川では今でもホタルがたくさん飛んでいる、というお話です。</p>

## 平成22年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

## 【一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
	ゆき		ゆきの結晶ができていく様子をメルヘンチックに描いた作品です。妖精のように描かれた雪の結晶のかけらたちがだんだん集まっていき、雪の結晶になっていく過程が描かれています。
入賞	地球に やさしく		地球にやさしい暮らしをするためにはどうしたらよいか、ごみを減らす、資源の無駄遣いをなくす、など、かわいらしいイラストとカラフルな文字でわかりやすく描かれた作品です。
	ぼくたちの居場所		せみの幼虫が羽化するための場所を求めて地上にあがってきますが、アスファルトやコンクリートに塞がれて、なかなか地上に出ることができません。「ぼく」はなんとか隙間を見つけて地上にでますが、「ぼくの仲間」は途中で力尽きてしまいました。途中で亡くなった仲間のためにも、ぼくたちの居場所がなくならないように願う、というお話です。

## 【子どもの部】

区分	作品タイトル	作品	職業
大賞	おばあちゃんのおまじない		ある春の日、いつき君はおばあちゃんと裏山に出かけ、おばあちゃんが編んでくれた大切な手袋を落としてしまいます。おばあちゃんは新しくまた手袋を編んでくれますが、いつき君はなくなった手袋が気がかりです。季節がめぐり、秋になり、いつき君が再び裏山へ出かけると、お地藏さんの前になくした手袋が置いてありました。ずいぶん汚れて色あせた手袋を、おばあちゃんがおまじないをかけて、きれいな毛糸に戻してくれました。そこで、いつき君は手袋を守ってくれたお地藏さんに感謝の気持ちを込めて、手編みのマフラーを編んでプレゼントする、というお話です。
優秀賞	お前知らないのか？		女の子が自分の部屋でくつろいでいると、突然、部屋の中が水浸しになり、ペンギンがやってきます。女の子は自分の部屋がなぜこうなってしまったのか理由がわからず、ペンギンに尋ねます。するとペンギンは、「お前知らないのか？」、「お前のようなエコでない生活を送っていると地球が温暖化して南極の水が溶けてしまうんだ」と怒りだします。女の子はペンギンさんに謝りますが、実はペンギンは夢で、女の子は自分の生活を見直し、エコな生活を送りはじめる、というお話です。

## 平成21年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

## 【一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
大賞	ばあちゃんの たいせつな 柿の木		ときおくんは、田舎のおじいちゃん、おばあちゃんのところへ遊びに行きます。おばあちゃんは、おじいちゃんが作る渋柿にまほうをかけて、あまくておいしい柿を作っています。ときおくんも近所の子もたちもおばあちゃんの作る柿が大好きです。後継者がいなくなり、そろそろ柿作りをやめようと思っていたおばあちゃんも、子どもたちが喜ぶ顔を見て、また続けることにしました。年月が過ぎ、現在ではときおくんが「ばあちゃんのたいせつな柿の木」を守っているというお話です。
優秀賞	おっこちた おほしさま		ある雨の日のできごとです。夕方になって雨がやみ、こぎつねのココンが外へ出てみると、草むらにたくさんのおほしさまが落ちています。おほしさまの正体はホタル。来年もこの場所でホタルが見られるように、この自然がいつまでも守られるようにしようねというお話です。
	むしなんか いなければいいのに		モエちゃんは虫が大嫌い。夏休み、田舎のおじいちゃんの家へ遊びに行き、畑にでかけ、いろいろな虫に出会います。そして、この地球は人間だけのものではなく、虫やその他の動植物、みんなのもの、ということを知り、虫と仲良くするというお話です。
	シロクマくんがおじゃまします。		子どもが本を読みながらテレビをつけっ放しにしています。すると、テレビの中のシロクマくんは、氷が溶けて溺れそうになってしまいます。シロクマくんは、テレビから抜け出し、ライフスタイルの見直しを伝えにやってきます。そして、エコな暮らしを続けた結果、氷は元に戻り、シロクマくんは感謝しながらテレビの中へ帰っていくというお話です。

## 平成21年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

## 【一般の部】

区分	作品タイトル	作品	あらすじ等
	おじいちゃんのふしぎなたね		ベジタは、野菜を育てていますがまったく育ちません。そんなとき、天国のおじいちゃんから1通の手紙と種が届きます。ベジタは手紙を読み、種をまくと、今までの生活を改善します。すると森や川が元気になり、引っ越してしまった仲間や天国のおじいちゃんまでもが帰ってくるというお話です。
	ぞうさんのもり		ぞうさんの背中にはりっぱな森がありました。ある日、ぞうさんは街へ行き、人々に頼まれ背中の木をどんどん分け与えていき、最後は木が1本もなくなってしまいます。ぞうさんは泣き出し、びっくりした人々はぞうさんのところへあつまり、背中にタネを植えます。再び、ぞうさんの背中にはりっぱな森が育ち、皆と仲良く暮らすというお話です。
入賞	やまはともだち		おいしい空気を吸いに森へ行き元気をもらおう。自然の中でいろいろな楽しみ方をほのぼのとしたタッチで描いた作品です。
	ほんとうのおおきさ		ねずみ、うさぎ、たぬき、きつね、つきのわぐまなど、動物たちは、自分の生活様式にあわせたサイズで生活しています。テレビや本で見ると、実物を見るのとでは大きさが違うことを教えてくれる作品です。
	自然の中へ さあ行こう！ ～岡崎の溪谷編～		アメンボのメアリーとカメラ型カメラのカメノスケが、くらがり溪谷へ出かけるお客さんに、自分たちが以前、くらがり溪谷で見てきた自然の様子を紹介するというお話です。

## 平成21年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

## 【子どもの部】

区分	作品タイトル	作品	職業
大賞	はっばいろのまほう		さなかちゃんは緑がいっぱいの村に住み、小鳥のチッチと仲良しの女の子です。ある日、お父さんのお仕事で、町に引っ越すことになりましたが、真っ黒な煙だらけの町にはチッチを連れてくることはできません。さなかちゃんはお母さんのアドバイスで木の苗を植えることにします。すると、その夜、緑の妖精が出てきて、さなかちゃんは緑を大切にすると約束すると…翌朝、苗は大きな木になっていて、チッチがやってくるというお話です。
優秀賞	地球からのメッセージ		海の主である万作じいが、桃山小学校の星川アスカちゃん、双子のシャチ、キララとムーンに、現在地球で起こっているさまざまな環境問題や問題を解決するために行っている活動などを教えるというお話です。
	地球の自然を守ろう		まるまる星に住むまるまる君とリボンまるちゃん。ある日、宇宙船に乗って地球に遊びにきました。森の中から助けを求める声が出て、行ってみるとゴミの山の中にうさぎの親子が閉じ込められていました。ゴミを片付け、まるまる星に帰ってきた二人。ポイ捨てをしていた元気まる君に注意をし、自然を大切にするというお話です。

平成20年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

参考

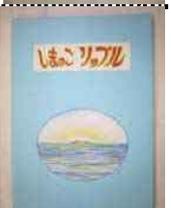
区分	作品タイトル	作品	作品のあらすじ等
大賞	ひっこしやさんはおおいそがし		からすのカースケはひっこしやさんです。一日の仕事が終わり、のんびりしようとしていると、くまのくまきさんがひっこしの依頼にやってきます。すると、開発が進み、人間の生活が優先されたため、住む場所を移らなくてはならなくなった生き物たちから、次々にひっこし依頼の電話がかかってきて、カースケはおおいそがしというお話です。
優秀賞	みんなの森		黒い荒地のまわりには、うさぎさん、きつねさん、いのししさん、くまさんが管理している自慢の4つの森があります。4匹は相談して黒い荒地に自分の森の木を植えて、みんなの森をつくるというお話です。
	アリくんの絵日記		住宅街の真ん中にある小さな庭に住んでいるアリくんが、ダンゴムシやなめくじ、バッタなど、庭に住んでいる仲間を絵日記で紹介してくれるお話です。
	そらいろスカート		ママのそらいろスカート。それはぼくのマントになり、お父さんのふとんになり…いろいろなものに変身し、最後はぼくの娘のそらいろスカートになりました。広げるとスカートが川のようにつながり、一枚の絵になるように作られています。
	おもちゃのいしやさん		フルタ先生は「おもちゃびょういん」のお医者さんです。先生のところには子どもたちが壊れたおもちゃを持ってやってきます。そんな様子を影から見守っている青い目の人形。先生がおもちゃのピアノを弾いたとたん、病院はおもちゃのゆうえんちへと変身し、青い目の人形も子供たちも楽しく遊び、おもちゃを大切にしようと思うお話です。
	ギン子・いのちをつらなる		ときおは学校のプールで産まれたヤゴを先生から分けてもらいます。ときおと家族が見守る中、大事に育てたヤゴはやがて羽化し、自由な大空へと飛び立ちます。水辺が少なくなり、プールで卵を産んでしまうトンボのいのちをつないでいくというお話です。

区分	作品タイトル	作品	作品のあらすじ等
入賞	アワビのかいていさんぽ		アワビくんはカニのおじさんの背中に乗って、海底の散歩に出かけます。すると、最近この海に棲みついた生物がアサリやヤドカリを食べてしまう場面に出くわします。恐ろしくなり、あわてて引き返そうとしますが…。地球温暖化により海の生態系が変化しているというお話です。
	あおいほし		宇宙の真ん中にあおいほし。そのほしは病気でした。そこに住む人々はほしを助けるため木を植え続けるというお話です。サイケ調の絵が素敵な本です。
	アマゴ物語		新城市立協和小学校にあるアマゴハウス。そこにいるアマゴの様子をネコやサル、アマゴなどいろいろな視点からお話を作っています。2年生～6年生までの児童による合作です。
	おかえり まったよ！		何十年に一度、地球へ旅立つちきゅう船。そこにはすでに絶滅した動物や絶滅寸前の動物たちが乗り込んでいました。懐かしい話をしていると、あっという間に地球が見えてきます。そして、地球は彼らの帰りを待っているというお話です。
	パパ・ママ ほしゅう中		市役所でその土地にしかないメダカの育ての親を募集し、ぼくと妹のゆきちゃんがパパ・ママになるお話です。移入種、外来種について描かれています。
	サンタからのSOS！		地球温暖化によりサンタさんのおもちゃ工場はピンチです。そこで、サンタさんは子供のところへいき、地球温暖化の防止を呼びかけます。子供たちのおかげで、おもちゃ工場は助かり、サンタさんは子供たちへプレゼントを届けに行くというお話です。
	101匹のカメの大ぼうけん		南国の砂浜に産みつけられた101個のカメの卵。101匹目に産まれたうらは途中仲間とはぐれてしまい、様々な冒険をします。やがて、皆と再会し、幸せに暮らしますが、ふるさとの海に戻り101個の卵を産むというお話です。
	川へ行こう！		アメンボのメアリーがカメラのカメノスケ3号を連れて乙川(岡崎市)を探検に行き、色々な生き物に出会うお話です。川の生き物が上手に描かれています。

## 平成20年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

区分	作品タイトル	作品	作品のあらすじ等
入賞	いのちをたべる		地球に生きているいのちを好き嫌いせず、残さず大事にいただきましょうということを描いた絵本です。
	みんなげんきになあれ		モコせんせいは病院の先生です。毎日いろいろな患者さんがやってきます。ある日、なんと、地球が患者さんとしてやってきました。そこで、先生はみんなに協力してもらい、地球を元気にする方法を実践し、地球が元気になるというお話です。

## 平成19年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

区分	作品タイトル	作品	作品のあらすじ等
大賞	ぼくらのつばき山		自然豊かなぼくらの遊び場であるつばき山が開発されるが、みんなの力で自然再生し守っていくお話
優秀賞	エコロじいちゃん		エコな生活を送るおじいちゃんと孫のお話
	カンガルー・マイバッグ		新しい街に移ったカンガルーが地球にやさしい暮らしを始めるお話
	しまのこリップル		リップルが住んでいた南の島が温暖化により沈んでしまうお話
	とびだせヤゴ太		ヤゴを育てることで生き物の命の大切さを知るお話
	おかたづけの1・2・3		おかたづけをしながらリサイクルやごみの減量について学ぶお話

## 平成19年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

区分	作品タイトル	作品	作品のあらすじ等
入賞	もったいないりょうり		ママが素材を捨てることなくエコクッキングでおいしい料理を作ってくれるお話
	だいじだいじ		水をムダに使っているうさぎちゃんがせんめんだいくんから水の大切さを教えられるお話
	なにかおかしくない？ (ママのさけび)		地球を守るためにママが身近な疑問をさけぶお話
	フラワさん		みどりちゃんが花のフラワさんを助けるために環境にやさしい暮らしをするお話
	ジュニアのカバン屋さん		カバン屋さんの子ども、ジュニアが、街のみんなにマイバッグを届けるお話
	自然っていいな		とうもろこしのトコくんが友だちと大都会と海へ出かけ、自然のよさを発見するお話
	夢の種		おじいさんが、花を育てることで元気になり、他の人にも花と夢を届けるお話
ゆずちゃんとおばあちゃん		ゆずちゃんとおばあちゃんが地球にやさしい暮らし方を実践するお話	

## 平成19年度 あいち環境絵本大賞 入選作品一覧

区分	作品タイトル	作 品	作品のあらすじ等
入賞	エコ・エコ・エコちゃん		エコちゃんが近頃元気のない友達の地球さんのために環境にやさしい暮らしをするお話
	四角い山		森で育ったコオロギが、捕まって四角い山(街)へ連れて行かれるが、森へ戻ってくるお話

## 「あいち環境絵本」DVD収録作品一覧

平成21年度作品

## 【一般の部】

大賞	ばあちゃんの たいせつな 柿の木
優秀賞	おっこちた おほしさま
	むしなんか いなければいいのに
	シロクマくんがおじゃまします。

平成20年度作品

大賞	ひっこしやさんはおおいそがし
優秀賞	みんなの森
	アリくんの絵日記
	そらいろスカート
	おもちゃのおいしやさん
	ギン子・いのちはつらなる

平成19年度作品

大賞	ぼくらのつばき山
優秀賞	エコロじいちゃん
	カンガルー・マイバッグ
	しまのこりップル
	とびだせヤゴ太
	おかたづけの1・2・3